

4-6 水生生物のコアゾーンづくり（野浦：浜辺、野浦川、トキ米、伝承館）

野浦地区は小佐渡東部の集落で、芸能とトキの野生復帰、農業と漁業などの活動と、ボランティア、体験学習の受け入れを積極的に行っています。インストラクターは、地区の保全活動団体、明日の・のうら21推進委員会です。

■野浦地区（明日の・のうら21推進委員会、野浦トキの郷米生産組合）

小佐渡東部の野浦地区は、海に面した集落で、すぐに傾斜があり、田んぼが棚田として山の中にあります。かつて野生のトキが飛んできていた場所で、昭和30年代～50年代にかけてもトキの保護活動が続けていました。トキの野生復帰計画が出た後、あらためて集落の歴史を振り返り、トキとの共生を目指した地域づくりを開始しました。その後、農薬や化学肥料を減らした米作りやビオトープづくり、森の整備活動を続けています。

また、伝統芸能も盛んな地域で、保育園児からお年寄りまでなんらかの会に所属し、伝統芸能を残しています。国の重要無形文化財の文弥人形、伝統芸能の春駒、佐渡おけさや野浦音頭、あるいは、創作村芝居なども行われ、年に1度、「野浦芸能の里フェスティバル」を開催するほか、集落内外での公演を行っています。

明日の・のうら21推進委員会は、トキと人が一緒に暮らせるような野浦の自然と文化づくり、地域外の人との交流を目的につくられた地区の活動団体です。

■コアゾーンづくりの内容

野浦地区では、田んぼやビオトープでの草取り、畦直しなどの作業のほか、野浦川や海辺の生きものが住める場所づくりなども可能です。

着替え、休憩等は、地区中央部にある野浦公民館、あるいは受け入れの民家（農家）で行います。

所要時間：2～4時間（山方面の場合、往復時間も含む）



山の上から見える海、野浦集落は海と山に囲まれています。

トキ交流会館
 【湯上】15.84ha(ピ2.73 冬13.11) 【久知河内】1.6ha(ピ1.6)
 【月布施】1.73ha(ピ1.73)
 2.74 冬8.98) 【野浦】10.16ha(ピ1.88 冬8.28)
 ■ 野生復帰ステーション



明日の・のうら21推進委員会



伝統芸能のひとつ文弥人形。右は、トキが野生にいた頃の掲示板